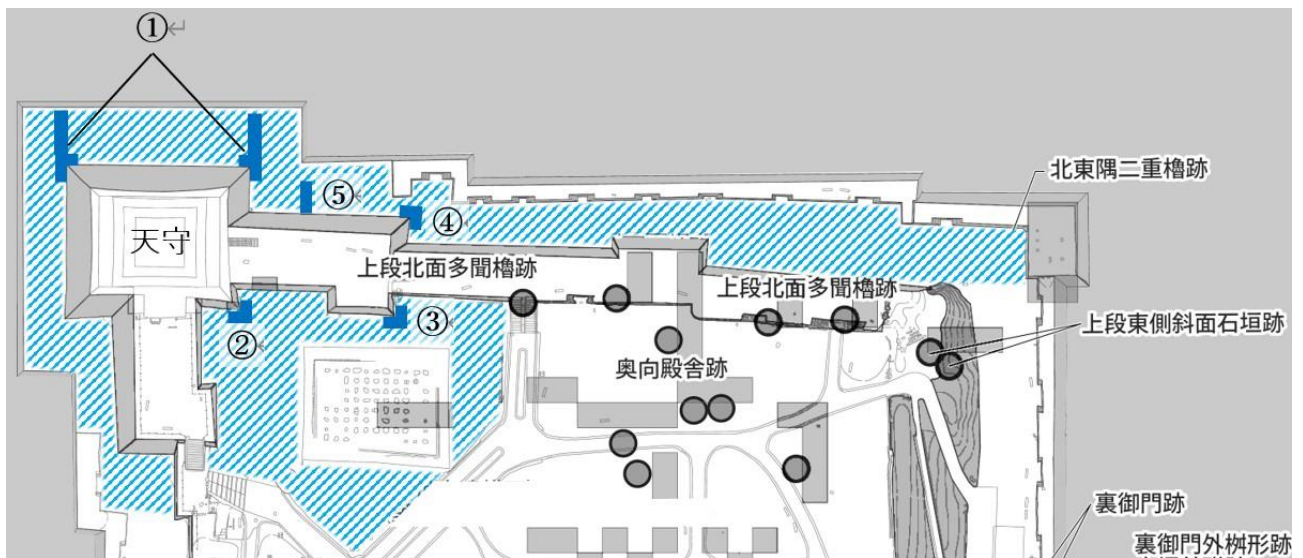


今年度の発掘調査箇所



※調査の主な目的

- ア 上段部と下段部の堆積状況の比較
- イ 天守台とその他の部分での石垣構築手法の比較
- ウ 戦後火災整理層（1 b 層）の堆積状況把握と内堀石垣との関係性の確認
- エ 石垣構築時の地上遺構（排水溝等）の確認

内 容	場 所	主な目的※
発掘調査 	①天守台基礎部（北東・北西隅部） 約 80 m ² の追加調査 40 m ² ／北側拡張 約 20 m ² ②天守台基礎部（南東隅部） 約 25 m ² ③東小天守台（南東隅部：上段） 約 20 m ² ④東小天守台（北東隅部：下段） 約 30 m ² ⑤東走櫓北面（下部） 約 175 m ²	ア・イ・ウ・エ ア・イ・エ ア・イ ア・イ ウ・エ
物理 探査等 	東・南小天守周辺 ※ 斜線範囲のうち、約 1,500 m ² ※ 探査場所については、協議により定める。	・下段腰曲輪部の戦後の改変状況を確認し、内堀石垣との関係性を把握する。 ・地中の遺構や排水管・送電線等の埋設物の確認も行い、発掘調査に必要な情報を得るとともに、整備検討に必要な基礎情報とする。